

子ども食堂×多摩区SDCを視察

多摩区SDC（ソーシャルデザインセンター）が地域活動の一環として実施している子ども食堂4ヶ所を見学。その後、この春から社会人となった多摩区SDC代表理事・伊藤直人さんと意見交換。4年目を迎えた多摩区SDCでは、地域に住む多くの学生ボランティアから人材が育っています。可能性と課題をあらためて感じる視察となりました。



多摩区SDC代表・伊藤直人さんと



子ども食堂・会場にて

福島県浪江町・相馬市を視察

5年ぶりの福島。現場を生で感じ、会話できる得難い体験と感銘の視察となりました。浪江町では、全児童が1.5キロ離れた裏山へ避難し津波から全員が助かった奇跡の請戸小学校（震災遺構）を卒業生の門馬よし彦さんにご案内頂きました。彼が最も伝えたいのは「大きな地震が来たら、誰でも良いから隣にいる人の手を繋いで逃げる。落ち着くまで戻らない」ということでした。「大きな津波が来る。すぐ逃げろ」という漁師さんの言葉を信じたことで全員が助かったそうです。その時、どう判断し行動するか、日頃からの心構えの大切さを痛感しました。



震災遺構・浪江町立請戸小学校



卒業生・門馬さんによるご説明

相馬市では立谷市長を表敬訪問。震災復興半ばで起きた、大雨災害による全市断水や震災後の度重なる地震への対応についてなど、貴重なお話を伺いました。講演では、震災・原発事故への対応、復興対策、子どもたちへの支援策も含めた多角的な政策、またコロナ下での地震対応など、常に先を見て決断される姿勢と、持ち帰って具現化したい良策の「宝の山」に改めて感銘を受けました。6月議会では相馬市との人材交流について提案。実現します。



講演を拝聴



立谷市長と

超党派有志の政策勉強会を主催

①「介護予防と認知症対策について」

講師は、多摩区在住・はなまる元気塾塾長の小田祥大さん。地域包括支援センターから直に聞き取った「現場の声」から、ひっ迫した現状が明らかに。介護現場の問題を共有しつつ課題解決に超党派有志チームで臨みます。



有志議員と小田さん(中央)



ディスカッション風景 市役所会議室にて

②「カーボンクレジットと生田緑地の再生について」

講師はカーボンニュートラル協会理事辻本貴行さんをお招きし、行政側からは環境局・脱炭素推進室長、建設緑政局・みどりの事業調整課長に参加して頂き、本格的な脱炭素社会の到来における川崎市としての本質的な取組について、生田緑地のナラ枯れ対策の莫大な費用を捻出するための資金調達方法について、などをディスカッション。森林の「炭素固定」に市場価値が高まる「カーボンクレジット」を都市型の生田緑地で展開できないか、など具体的に検討しました。課題山積ですが、今後もあらゆる角度から検討し、脱炭素も生田緑地の命を育む政策も知恵を集めて取組んでまいります。



参加の行政担当者と吉沢市役所会議室にて



辻本さん(右端)と有志議員



2023 Vol.27 ecoako

吉沢章子通信

https://yoshizawa-akiko.jp 川崎市議会議員 一級建築士

無所属

ごあいさつ

皆さまこんにちは。吉沢章子です。吉沢章子通信vol.27では、選挙直前の3月議会と改選後初の6月議会における質問を中心にご報告いたします。「輝く未来を、子どもたちに」のコンセプトのもと、政策実現に邁進し是非々々で臨んでおります。

災害級の厳しい暑さや豪雨など、気候変動の影響に大きく左右される昨今です。また今年に関東大震災から100年目、地震のリスクも高くなっています。吉沢章子通信でお知らせした重ねるハザードマップ、マイタイムライン、my減災マップ、7日間の備蓄、トイレの備蓄などの情報も活用し、命を守る行動「備えあれば憂いなし」につなげて頂けたら幸いです。日々の暮らしが少しでも安心・安全で楽しいものとなりますよう引き続き尽力してまいります。ご一読いただきご意見・ご感想など頂けたら幸いです。



市政を身近に

column

ご存じですか？川崎市議会 ~委員会について~

※一年毎にかわります

川崎市には5つの常任委員会があります

議員は必ずどこかの委員会に所属します

委員会の役割 議案の審査・請願陳情などの審査・所管している事業局の報告など説明を受け・質疑・採決をします。

今年の私の所属は環境委員会です



常任委員会の種類と所管局とその内容（一部）

総務委員会	文教委員会	健康福祉委員会	まちづくり委員会	環境委員会
総務企画局 財政局 経済労働局 臨海部国際戦略本部 危機管理本部 等	市民文化局 こども未来局 教育委員会	健康福祉局 病院局 消防局	まちづくり局 建設緑政局	環境局 港湾局 上下水道局 交通局

総合計画・財政・商工業 観光・臨海部・危機管理など	人権・市民サービス・文化振興 スポーツ・マイナンバー・保育園 幼稚園・学校・教育など	福祉・医療・国民年金 保健衛生・動物愛護 病院・消防など	都市計画・住宅・道路 公園・河川など	生活環境(ごみ収集など) 脱炭素・港湾 上下水道 市営バスなど
------------------------------	--	------------------------------------	-----------------------	---------------------------------------

その他に予算審査特別委員会・決算審査特別委員会・大都市税財政制度調査特別委員会・議会運営委員会があります

詳しくは川崎市議会HP

市議会ガイドをご覧ください <https://www.city.kawasaki.jp/980/page/0000026851.html>

吉沢章子事務所・プロフィール



事務所を引っ越しました

214-0014

川崎市多摩区登戸1768 吉澤ビル102

TEL 044-933-8018 FAX 044-933-8032



Facebook

吉沢章子



Instagram

吉沢章子



Youtube

@あっこチャンネル

- S39年 3月14日多摩区に生まれる
- S59年 菊竹清訓建築設計事務所 勤務
- H08年 吉沢章子建築設計事務所 開所
- H15年 川崎市議会議員 初当選
- H29年 川崎市長選挙 出馬
- R01年 川崎市議会議員 5期目当選
- 趣味 サッカードライブ 絵を描く 詩を描く 歌を詠む

3月予算審査特別委員会・6月一般質問 議会報告

関東大震災から100年。命と暮らしの安全を守る政策を提言

マンション適正管理の提案が実現→耐震化につなげる取組をさらに提案

令和元年12月議会の「マンションを適正管理することで資産価値も上がり、減災につながる。市がサポートすべき」との提案が実現

「川崎市マンション管理適正化推進計画」を今年度策定し取組を位置づけるとの答弁です。一方、川崎市における旧耐震のマンションは447件で、総数約3000件の15%を占めています（多摩区65件、川崎区89件、宮前区125件など）耐震対策が必要ですが、なかなか進まないのが現状です。そこで適正管理の相談窓口で管理組合さんと接点を持つ折、チェックリストによる「マンションの健康診断」などで、適正管理と耐震化につなげる工夫が必要と提案し、取組むとの答弁を得、周知・広報の徹底も要望しました。

旧耐震マンションの数	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	合計
	89	39	50	44	125	65	35	447件

地震被害想定の見直しでリスクを明確に

「地震被害想定」は川崎市地震対策の根幹です。10年ぶりの見直しを求めると同時に、長周期地震動など都市型の被害を含め「最悪の事態からの逆算の視点」で想定外をなくす策定を求め、危機管理監から同意を得ました。長周期地震動は、地震時に高層階が長時間揺れ続け被害をもたらす現象です。今年2月から気象庁が緊急地震速報を発することになりました。高層マンション居住者や高層ビルの管理者に対し、家具転倒防止などの対応策とともに周知徹底するよう提案し、あらゆる機会を捉えて啓発するとの答弁を得ました。



多摩病院の浸水対策を早急に

川崎市に7つある災害拠点病院の中で、多摩病院が最も浸水リスクが高いことを明らかにし、徹底的な浸水対策の早急な取組を求めました。対策をしなければ災害拠点病院指定の取り消しにも繋がりがかねません。併せて今日来るかもしれない水害に備え、交付金を活用し、先ず排水ポンプの購入を求めました。多摩病院は「命の砦」です。その機能を維持し区民の命を守るべく今後も取組を続けます。



有事に強い人材育成を

発災時は現場対応力が全てと言っても過言ではありません。相馬市で東日本大震災の折に現場対応した職員さんの話を伺い感銘を受けました。体験者のお話は何よりの学びであり、招へし本市職員と交流することを提案、実現することとなりました。また以前より提案していた東京大学・災害対策トレーニングセンターとの連携による人材育成については、職員が研修モニターとしてトレーニングに参加、さらに自主防災組織等のリーダー研修への活用を検討との答弁でした。災害対策は1丁目1番地です。引き続きあらゆる角度から提案してまいります。

生田緑地の「都市型森林の再生モデル」と「土砂災害対策」を提言

生田緑地のナラ枯れは約1900本。対策費用を試算すると少なくとも約6億6500万円。ナラ枯れは生物多様性の宝庫である生田緑地の存亡に関わる重大な問題です。資金調達について森林が二酸化炭素を吸収・固定することに価値がつくカーボンクレジットの手法を用い、都市型森林の再生モデルとして資金を確保することを提案し検討を深めることを確認しました。（議場で費用について議論したことにより9月議会でナラ枯れ対策の補正予算が6000万円計上されました）また生田緑地は急傾斜地が多く、含水量の高い丘陵地帯に属しており、過去の地震や水害の際に土砂災害が起きています。生田緑地は人が集まる場所です。正しく避難するため「危険の周知徹底」を提案し、実現の確約を得ました。難しいと言われる「緑を守りながらの土砂災害対策」の実現に向け取組んでまいります。



生田緑地
ピンクの印がナラ枯れの箇所

消えた月見台名店街の街路灯が再点灯

月見台名店街の街路灯が消えたことと相談を受けました。可能な限り早急に点灯し、商店街の街路灯から町会の防犯灯へ移行するよう議会でも質しましたが、何よりも五反田自治会、月見台自治会の大きなご協力があった防犯灯として再点灯に至ることができました。そもそも商店街街路灯は電気料金の補助率も低く、灯具交換などの補助はありません。安全確保の観点から維持管理への支援を求めたところ、商店街と十分に意見交換し研究するとの答弁を得ました。引き続き取組んでまいります。



消えた街路灯



防犯灯として点灯

現場の声から政策提言

若者による多摩川ゴミ減量の取組について

SDGs学習で多摩川のゴミ減量に取り組んでいる中学生のグループとディスカッション。「ごみの現状を数値化して見える化し、わかりやすい看板を立てる。ごみ拾い活動を若者から発信することで行動変容を促す」ことを議会で提案すると、環境局は若者世代と意見交換し協働で取組みたいと答弁しました。「多世代での課題解決」へ向けても一歩前進です。



中学生 × 吉沢

アンカーフロントタウン生田の市民利用について

駐車場料金が障がい者の方も有料と伺い、他の公共施設同様無料にすべきと提案したところ6月21日から無料となりました。併せて土日祝日の上限なし設定の再考と、与条件としていた消防団の消防大会・出初式・操法練習の履行を求め、具体的に検討するとの答弁を得ました。民間活用施設であってもあくまで「事業主は川崎市」であり「オーナーは市民」であることを忘れないよう市長以下、全局長に提言しました。



水路等の払い下げについて

多摩区の水路総延長は市内随一。ご相談の多い水路の売却は原則上流部から。途中から購入希望の場合、上流部に接する隣地の承諾が必要となりますが「隣地の持ち主と連絡が取れない」「持ち主が判断できない状況」などの場合払い下げが許可されません。一方で長期間の占拠を理由に払い下げることなく権利を主張する方には対抗措置はとられていません。これでは「正直者が馬鹿をみる」状況です。要領を改定すべきと指摘すると「今後、基準の考え方について関係局区と調整しながら調査研究していく」との答弁を得ました。法は守るだけでなく必要に応じて改善するもの。資産マネジメントの観点からも重要であり早期に取組むことをさらに指摘しました。

行財政改革への政策提言

上下水道局の架空請求について

上下水道局と同様の架空請求が市全体でも行われていないか調査すべきと指摘した件について質したところ「一部不適切な事務執行があったが不正行為は確認されなかった。しかし材料を取り扱う部署についてはさらに会計部門による調査をする」との答弁に、膿を出し切るよう徹底的な取組を求めました。また職場風土の改善の取組について、組織のトップである上下水道管理者が現場に出向き、若手職員と直接話すラウンドテーブルミーティング実施などの報告を受けました。改革は緒に就いたばかり。市民サービスの向上につながる風通しの良い組織の実現にむけ全庁で取組むよう市長に要望しました。

財政・行革について予算審査特別委員会で提言

昨年の予算審査特別委員会で「職員の工夫のしどころである政策的経費が『一律5%シーリング』により削られ、総額33億2800万円にも上っている。税収が伸びているのに収支フレームと理屈も合わない。見直すべき」と指摘した結果、今年度は3%・総額2億4000万円と激減しました。そもそも一律シーリングという安易な方法ではなく、例えば、迫りくる災害対策に重点的に予算配分をするなど、今何が必要なのか十分考えて予算措置すべきである。また「J-クレジット」のような新たな資金調達や「水路の払い下げ」など既存のルールを変えて財産収入を得ることも提案したが、資産マネジメントに対してもっと創意工夫を提言しました。

- 資産運用
- 資金調達 などなど
- 予算配分



新しい時代への政策提言

ペロブスカイト太陽電池の活用について

川崎市に本社をもつ東芝エネルギーシステムズ(株)さんは、国策として展開されているペロブスカイト太陽電池を開発しています。川崎市として地元企業ともしっかり連携すべきと質すと、市有施設を実験フィールドとして提供するなど積極的に実現に向けた協力をすると答弁。経済・環境・脱炭素に資するものであり、実証実験はもとより実装への積極的な支援を要望しました。



Youtube あっこチャンネル

吉沢章子が直接政策を語る
ご覧ください!

